

認知症

「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」という言葉を皆さんは、見たり聞いたことありますか。それは、誰かが認知症になった時だけでなく、自分自身が認知症になった時も安心して暮らしていくためにはどうしたらいいのかを考えていくことです。



DEMENTIA

認知症と災害

認知症の人は人との関りの変化や環境の変化についていけない病気です。

平成30年7月の西日本豪雨災害では、多くの方が被災されました。あさのクリニックに通院されている患者さんやいつも支援いただいている事業所、その職員の方も被災されました。避難所生活や急な利用サービスの変更などの慣れない環境で、多くの不安をお持ちであるとお聞きしています。

特に、認知症の人は人との関り方や急激な環境の変化についていけないため、今回のような災害時には、どうした

らいいかわからなくなり不安がいつもより強くなります。しかし、このような場合でも、周囲の方々が認知症について理解して接することで、本人の不安を軽減することができます。

今月号は、災害時の認知症の人への接し方と避難所で過ごせる条件をお伝えします。掲載の内容は、社会福祉法人東北福祉会 認知症介護・研修仙台センターが監修し、WEBページで公開している「避難所での認知症の人と家族支援ガイド」を参照・引用させていただきました。より詳しい内容を知りたい方は、認知症介護・研修仙台センターのWEBページをぜひご覧ください。（「避難所での認知症の人と家族支援ガイド」でインターネット検索）

一日も早い復興を衷心より祈念するとともに、当院も医療を中心とした支援に尽力してまいります。

認知症の人への接し方

- 1 驚かせない**
同じ目線で、前からゆっくりとが基本です。
- 2 急がせない**
思うように言葉が出なくなります。ゆっくり聞いてください。
- 3 自尊心を傷つけない**
一人の人生の先輩として接することで本人も落ち着きます。
- 4 介護者へも声かけを**
介護者は自分のこともままならず、認知症の人と周囲の人に集中しています。協力して共同生活を考えていきましょう。

避難所で過ごせる条件

東日本大震災の時の教訓として避難所生活の条件として次のことがあげられました。

- 1位 周囲の方の理解があった**
- 2位 なじみの人や家族が近くにいた**
- 3位 介護者を支援する人がいた**
- 4位 常に見守れる協力体制があった**
- 5位 日課や役割等を作った**

その他に、**認知症の知識がある、飲み込みやすい食事、レクリエーション**などがあげられました。

院長の認知症コラム COLUMN 「認知症と災害」

上記で紹介した認知症の人への接し方は、日常から必要な認知症の人への支援の考え方と同じです。阪神淡路大震災を契機に、災害の時における子ども、障がい者、高齢者への支援について、多くの研究や事前準備について発信されるようになりました。今回の豪雨災害でもその知見を参考にできるのではないかと思います。